

## 懐メロ歌謡サークルの施設訪問に入居者も笑顔

### 活動内容や特徴など

懐メロサークルは、現在、月に四、五回程度、計三十施設の慰問を行っています。

慰問の際にはメンバーが歌を披露するだけでなく、途中で入居者の方々も巻き込んで一緒に二、三曲を歌うコーナーを設けて、触れ合いにも努めています。

また、慰問先で使用するプログラムは、代表が毎回、今時珍しい手書きで作成していることも特徴で、どの会場でも好評を博しているようです。

同サークルの慰問回数は、平成三十年八月には三百回を超え、平成三十一年二月末時点では三百三十五回を数えるまでになりました。

サークル会員が慰問で披露する曲目は昭和の歌謡曲が中心で、入居者の方々は手拍子をしたり目を閉じて懐かしそうに聞き入っているそうです。

慰問にあたり、同サークルでは入居者の方々から楽しく聞いてもらうため、毎月一回の練習日を設けており、準備にも余念がないという状況です。

### メンバーの声

メンバー最年長の舟田スエノさん（87歳）は、歌謡ステージの終了後の握手やふれあいの中で入居者の方々からかけられる『また来てください』と、言われるたびにやりがいを感じます。歌う側も元気になれるこの活動を楽しみにしています」と話しています。

### 周囲の反響

歌謡ステージを聞いた入居者の方々からは、「歌を聞いて懐かしい昔を思い出した」という声が聞かれるほか、慰問先の施設からは、ステージの終了後に「是非またお願いしたい。」「今度いつ来てくれますか？」といったお願いが多くあり、訪問日程の調整にうれしい悲鳴があがることもあるそうです。